

生活

【身近な生活に関わる見方・考え方】

身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする事。

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

1 気付きの質を高める学習過程

- 生活科においては、一連の学習活動の「まとまり」としての単元の中で、体験活動と表現活動が繰り返されることで児童の学びの質を高めていきます。
- 活動や体験の中で、児童が伝え合ったり振り返ったりして表現したいという状況が生まれるよう、次のような学習過程を基本にして、単元を構想します。
 - ①思いや願いをもつ
 - ②活動や体験をする
 - ③感じる・考える
 - ④表現する・行為する（伝え合う・振り返る）
- 学習過程は、上記の①～④が順序よく繰り返されるものではなく、順序が入れ替わったり、一つの活動に複数の過程が一体化して同時に行われたりする場合もあります。こうした生活科の特質を踏まえ、学習活動の展開に応じて弾力的に捉えるようにします。

2 気付きの質を高める多様な学習活動

- 具体的な活動や体験を通じて気付いたことを基に考え、気付きを確かなものとしたり、新たな気付きを得たりするようにするため、条件を変えて試す、再試行する、繰り返す、確かめる学習活動を位置付けます。
- 児童が気付いたことを基に考え、そこからさらに気付きの質を高めるよう、見付ける、比べる、たとえる、試す、見通す、工夫するなどの多様な学習活動を位置付けます。

- 相手意識、目的意識をもたせ、一人一人の気づきを全員で共有し、みんなで高めることができるよう、活動や体験したことを言葉などによって振り返り、伝え合う活動を位置付けます。

3 幼児期の教育との連携

- 幼稚園教育要領等に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、幼児期の実態を理解し、自覚的な学びとして期待する児童の姿を幼稚園等と共有します。
- 児童が安心感をもち、自分の力で学校生活を送ることができるよう、児童の実態を踏まえること、人間関係が豊かに広がること、学習のきっかけが生まれることなどの視点で学習環境を見直します。
- スタートカリキュラムで学ぶ児童の姿を、幼稚園・認定こども園・保育所の保育者に見てもらい、改善のための協議を行うなど、双方の取組の改善を図ります。

【参考】 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿



指導の一層の充実に向けて

- 生活科の学習成果を他教科等の学習に生かしたり、他教科等の学習成果を生活科の学習に生かしたりするなど、生活科と他教科等との合科的・関連的な指導を行い、低学年の児童の生活とつながる学習活動を取り入れます。
- 1年間の全ての単元を俯瞰することができる単元配列表を作成し、社会科や理科、総合的な学習の時間等との違いや関連について理解し、生活科と他教科等において、学んだことがどのように関連付いていくのか明らかにします。